



昭和8年の講演を知っている方は—
 新渡戸稲造は三陸大津波のあった昭和8年5月18日に宮古小学校で講演を行っている。その時の講演を知っている方が宮古にいると思っ
 ぜひ知らせしてほしい。
 新渡戸基金の藤井茂事務局長は呼びかけている。☎019-654-3279まで。



妻メリーと新渡戸稲造。
 資料から転載。

新渡戸稲造と宮古
震災復興への祈り
 国連事務次長など農災1周年東北フォーラム(東北大)での「世界で著名な新渡戸稲造博士の没後80年を記念した東日本大震災復興支援講演会」新渡戸稲造の復興への祈り(実行委主催)は19日、陸中ビルで開かれ、200人を超える市民が新渡戸と宮古との関わりについて聴講した。この日は午前に作家の高橋克彦氏が東日本大震災について対談した。

榎野教授は「新渡戸は温故知新ではなく温故創新こそ現代への貢献であり、ガンは真の目標を失った細胞である。人は最後は死ぬといった大切な仕事が残っている」と心を通わす事が人間の一番の楽しみと新渡戸の基本精神を講演した。

藤井氏は、新渡戸と宮古の関わりについて「大正3年7月に下閉伊郡教育部会講師として宮古入りをし、22日に宮古町公会堂(火災前の市役所)、23日は刈屋で講演、2年後の同5年8月には宮古と岩泉の浅内小、岩泉小で講演している」と語り「昭和8年5月に宮古小学校で講演、その5ヶ月後に死去した。また岩手県で交通事故

の第1号は、宮古の2代目菊池長右門氏が経営する盛宮自動車で宮古から盛岡へ帰る途中だった」など新渡戸の歴史を語った。

高橋氏は大和、和人和歌、和食など「和」について詳しく説明。平泉が世界遺産になったのは3・11でたった1人だけになった子どもやお年寄りが「自分より困っている人のために」と語ったのが世界に広がり「浄土思想が理解された」と蝦夷からの歴史を述べた。



発行所 宮古民友社
 編集人 鳥居 弘
 編集発行 宮古市八木沢3丁目6番3号
 郵便振替 02320-1-9872
 TEL 0193 (63) 5919
 FAX 0193 (63) 0871
 E-mail minyu@amber.plala.or.jp

名産天蓬 芳醇清酒
千両男山
 株式会社 菱屋酒造店
 宮古市鍛ヶ崎
 電話 八二一三二二八